

核戦争防止 千葉県医師の会 ニュース

発行
核戦争防止千葉県医師の会
〒263-0054
千葉市稲毛区宮野木町
1722-77
電話 043(259)8048



NO NUKES DAY 原発行動や集会に6万人が参加

9月8日、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスで国際オリンピック委員会総会が開かれ、2020年の東京五輪開催が決まった。開催地決定の選考にあたり多くの委員から福島原発事故についての不安が出されていた。しかし、安倍首相はこの前夜の最終プレゼンテーションで原発からの汚染水漏れについて「状況はコントロールされている」「港湾内の0.3平方キロメートルの範囲内で完全にブロックされている」と驚くような発言を堂々と言い切った。しかし、現実はどうだろう。今でも破壊された原子炉や使用済みの燃料には大量の水をかけ続けなければならない状況は続いている。

しかも、高濃度の放射線に汚染された水を貯めてあるタンクから、次々と漏れが始まっている。漏れた汚染水は地下水に混ざり、あるいは直接地表の排水溝から海に流れ出している。しかも、この排水溝は港湾の外につながっているのだ。どれだけの放射性物質が海に流されたのか、東電でもはっきりと分らないという。安倍首相発言の直後、東電の関係者も「今の状態は、決してコントロールできていない状況ではない」といい、原子力規制委員会でさえも、今の状態は「原子力事故評価尺度でもレベル3（重大な異常事象）に相当する」と発表している。

安倍首相よ、これ以上国民をだまさないでほしい。いや、世界の人をだまさないでほしい。
(高橋 稔)



2013年度方針を提案する川村代表世話人



炎天下の中、行進前の出発集会

第30回総会開催 原発ゼロ・核兵器廃絶を 共同した取り組みに

6月16日、核戦争防止千葉
県医師の会第30回定期総会が
協会会議室で開催した。
冒頭、花井代表世話人が
「憲法の改悪の動きが現政権
下で進められています。戦争
をする国にしないために他の
諸団体と協力した活動を進め
ていきたい」と挨拶。
前島明世話人を議長に選

出し議事に入った。2012
年度の活動報告に立った川村
代表世話人からは、主な活
動として医師・医学者のつど
いやI P P P N W 広島大会
への参加、会員の推移や財政
状況について一年間の活動経
過にそって報告が行われた。
事務局からの会計報告及び監
査報告の後、2013年度

炎天下の平和大行進 核廃絶を道行く人に訴える

礼文島を5月2日に出発した国民平和大行進は7月10日茨城県から千葉県に引き継がれ、7月23日東京への引き継ぎまでの13日間で幹線コースは225団体1,715人、網の目コースを含め3,083人が参加した。医師の会は7月14日(日)の千葉→八千代幹線コースに花井世話人が参加。当日は猛暑の中での行進となる中、「核兵器廃絶」「憲法改悪許すな」を道行く人に訴えた。

の活動報告・まとめと会計に
ついての提案を全会一致で承
認した。
続いて2013年度の方
針案について小川雅敏世話人
より①原発ゼロをめざす活
動への積極的な参加、②医師
医学者のつどいへの参加、③
「核兵器全面禁止アピール」

国際署名活動の推進、④平和
憲法9条を守る活動の推進、
⑤会員拡大と財政の安定化、
などの方針案の提案が承認さ
れた。

総会に先立って憲法擁護
の重要性を説いた「戦争を
しない国 日本」(2006)
と「STOP 戦争への道
」(2013年憲法と共に歩む
政策委員会製作)のビデオ上
映を行った。

二〇一三年度役員

代表世話人

川村 実
前島 明

世話人

岡崎 敏太郎
小川 雅敏
鎌田 美保
穴倉 正胤
高橋 稔
野崎 泰夫
花井 透
松尾 洋一郎
松本 俊二
坂登 輝夫
渡辺 孝夫

会計監査
顧問

この間の活動報告

6・2 NO NUKES DAY 原発行動 国会前に6万人



全国各地から6万人が参加した国会前集会

原子力発電所の再稼働反対、原発ゼロを目指した一大行動「NO NUKES DAY」が6月2日、都内で行われた。同趣旨の取り組みを進めている「原発をなくす全国連絡会」など同日に行動を設定、2つの団体がそれぞれ集会を開き、夕方以降は「反原

発☆国会大包围」に合流した。医師の会からは野崎泰夫・小川雅敏・前島明各世話人が参加。

明治公園で行われた全国連絡会主催の集会には主催者発表で1万8千人が参加。挨拶にたった長瀬文雄全日本民主医療機関連合会事務局長は、「安倍首相は再稼働に前のめりであり、トルコを初めとして世界各国に原発を輸出しようとしている」と批判、世論調査で7割を超える国民が原発にNOの立場を示していることなどを紹介。「原発は人の命の問題、一人一人は微力だがお互いに力を合わせましょう」と呼びかけ、リレートークでは各地で再稼働反対を求めている人達等が次々と思いを話した。

六本木までのパレードで、協会の参加者はお手製のPR板を掲げ、道行く人に訴えながら国会大包围行動に合流した。仮設ステージでは国会議員や各地の原発の取り組みを行っている人達が次々とスピーチを行った。国会前には6万人（反原発連合発表）が集まった。

6・9核戦争に反対する医師の会講演会



福島原発事故の放射能汚染の実態が報告された講演会

6月9日、核戦争に反対する医師の会（38団体で構成）が主催する講演会が東京御茶ノ水の平和と労働センター

ホールで開かれた。当日は各地の反核医師の会関係者ら80名余りが参加、医師の会からは花井透・川村実両代表世話人、前島明・野崎泰夫・小川雅敏各世話人、事務局が参加した。講演会では「福島原発事故から2年、放射能汚染の実態はどうなっているのか」をテーマに、獨協医科大学国際疫学研究室の木村真三准教授を講師に迎え、原発事故以降に行った現地調査などをふまえた福島汚染マップ作成の取り組みとこの間の甲状腺検査結果について報告が行われた。

当会のホームページのアドレス

<http://mkawamura.cocolog-nifty.com/kakubouchiba/>
是非ご覧のうえ、ご意見等をお寄せください。

ピースフェスティバル2013 戦争や核兵器をなくし いのちを大切に

冒頭、青木茂実行委員長（千葉県原爆被爆者友愛会会長）が「今、核兵器廃絶への動きが、国際的に高まってきている。私たちはこの動きをさらに大きく前進させていきたい」と挨拶。続いて、ソプラノ歌手の堀口弥生氏とピアノ奏者の平木晶子氏による、「とべよ鳩よ」「ふるさとの」等、平和への願いを込めた5



若い世代へ語り継ぐ被曝体験

寄稿のお願い

核戦争防止千葉県医師の会ニュースへ奮ってご寄稿をお願いします。

医師の会では会員の皆様から核廃絶問題や原発問題などをテーマとしたご意見をお待ちしています。来年は医師の会ニュースの発刊30年を迎えます。皆様のご意見をぜひお寄せ下さい。

8月24日、核兵器廃絶をめざす千葉県平和事業実行委員会（26団体・個人で構成）は、千葉市文化センター・アートホールで「いま、力をひとつに ピース・フェスティバルCHIBA 2013」を開いた。当日は約400人が参加した。

曲の歌が披露された。証言のコーナーでは、広島で被爆した小谷孝子氏と、原水禁世界大会に参加した看護学校生ら青年4名が平和のメッセージを伝えた。八千代市内の小学校や公民館等で被爆体験の語り部をしている小

谷氏は、1945年8月6日、6歳の時に被爆。得意の腹話術を活かし、その相棒とともに自身の壮絶な被爆体験を切々と語り、「戦争を無くし、核兵器を無くし、原発を無くし、病气や飢えを無くし、人を憎む心を無くし、人や動物や植物の命を大切にしましょう」と訴えた。

木村氏はこの間の福島県での甲状腺の検査結果については、約17万人の検査結果では12名が甲状腺がんで、15名が「がんの疑い」となったことを報告。これに対してこの調査主体の福島県立医大は、チエルノブイリ原発事故によ

るがんが見つかったのが事故4〜5年後以降だったとして「放射線の影響は考えられない」と説明していることに疑問を投げかけた。その上で、「（甲状腺がん）判定については疑わしくは認定すべき」という基本姿勢が重要と強調。

今後は①50年間のカルテ保存、②スクリーニング効果とということに惑わされないこと、③健康手帳配布による自身健康管理の掌握及び行政の追跡調査を継続することなどの必要性を強調した。

スタンダップコメディアン

の松本ヒロ氏による政治風刺コントは、会場を爆笑の渦に巻き込んだ。自らを「憲法君」と称して登場し、リストラされそうな憲法前文を紹介。それらに掲げられた理想に現実を近づけようと呼びかけた。

＝ お知らせ ＝

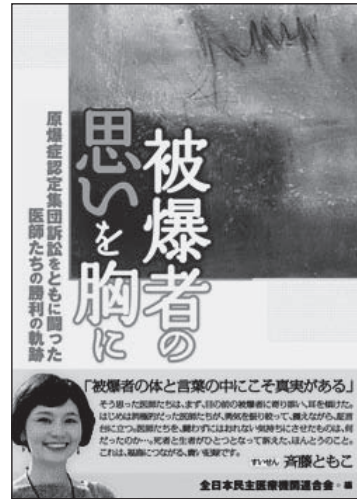
DVD「核のゴミどうすんの!? 山本太郎と広瀬隆のドイツ取材3000kmの旅」を会費を納入いただいた会員の先生方にお配り（無料）しています。

このDVDは①原発廃炉で立地自治体の経済は成り立つか、②中間貯蔵、最終処分地に関する問題、について取材した内容となっています。ご覧いただきご意見ご感想などお寄せ下さい。



書籍紹介

2003年4月に始まった原爆症認定集団訴訟は全国17地裁で原告は300余名に上り、2011年12月の終結まで8年の裁判闘争となりました。原告はまさにいのちをかけた闘いであったことは予想に難くありません。この書籍は訴訟に携わり、医学的に支援した医師たちの貴重な記録をまとめたものです。



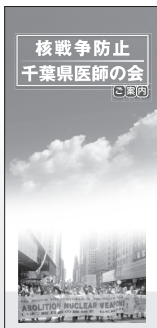
被曝者の思いを胸に

全日本民主医療機関連合会編
かもがわ出版

定価：2,500円

会費納入のお願い

医師の会では核兵器廃絶・核戦争防止の運動を広げるための活動を進めています。このニュースは年数回発行し各会員にお届けしています。さらに核廃絶の運動に各団体と連帯して活動しています。その活動費は会員の皆様の会費によって賄われています。諸活動を進めるために財政をいくらか余裕のある状態とするために、会費を納入と会員の新たな加入を進めていきます。
2013年度の会費を同封の振込み用紙にてぜひお振込みいただけますようお願いいたします。



医師の会ご案内リーフレットができました
ご入会のお勧めにご活用ください！

会が発足して29年目を迎えますが、これまで、入会をお勧めする際に提示する案内文がありませんでした。

代表世話人の挨拶とこれまでの活動内容を写真も挿入して紹介するとともに、規約と入会申込書をセットしたカラー刷りのリーフレットを作成しました。

是非、お知り合いに手渡しいただき、入会をお勧めください。

11 / 10 (日)

午後2時～

保険医協会会議室

講師：西尾 正道 氏

(北海道がんセンター名誉院長)

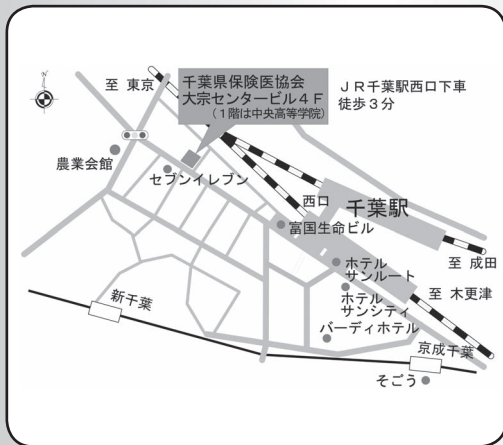


ICRPを中心に国際的に流布されている放射線健康障害に関する知見は疑似科学であり、原子力政策を推進するために作られた物語である。医学論文では100mSv以下の低線量被曝でも多くの健康被害が報告されているが、原爆の健康被害データだけで放射線防護体系を構築しているICRPは、最近の低線量被曝による被害に関する報告に対して、全く反論できない状況である。このため低線量被曝の影響に関しては、原子力政策の推進が、脱原発かの立場からだけの神学論争の様相を呈している。

しかし、核反応を利用するという「パンドラの箱」を開けた人類は、否応なしに放射線と向き合うこととなった。そこでは被曝線量の実測を基にして議論するという科学的な姿勢が必要である。講演では低線量被曝の健康被害と軽視されている内部被曝の問題を中心に報告する。

● 被曝問題学習講演会 ●

低線量被曝による健康への影響



主催：千葉県保険協会
共催：核戦争防止千葉県医師の会

〒260-0031
千葉市中央区新千葉2-7-2
大宗センタービル 4F
電話 043-248-1617 F A X 043-245-1777
E-mail: chiba-hok@doc-net.or.jp